資料２

地域で活発な活動団体紹介

岐阜県環境生活部環境生活政策課地域コミュニティ室
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570　岐阜市薮田南 2-1-1（県庁６階）　電話 058-272-8199

①岐阜市 芥見東（あくたみひがし） 自治会連合会

（平成２６年5月２３日訪問）

所在地　芥見東公民館
（〒501-3127 岐阜市大洞桜台１丁目 26 - ２ ）
代表者　多田　喜代則　　会員　2,338 世帯

地区の概要

岐阜市の北東部に位置し、昭和 40 年代に岐阜市が開発したマンモス団地。自治会が 55 あり、12 の支部に分かれ、自治会連合会がそれらをまとめる。団塊の世代が定年退職し、その二世世代は当地区を離れて生活。今後の少子・高齢化社会を見据え、自分たちの地域を自分たちの手で、安全で安心な魅力ある町にしようと様々な事業を立ち上げ、日々精力的に活動している。

主な特色

・みどりっこバスの運行

高齢化が進む団地において、通院・買い物などの足となるコミュニティバス。「みどりっこちゃん」という芥見地区オリジナルのキャラクターをつくり、バスの名前につけている。行き先案内や、乗り降りの手伝いなど、ボランティア（夏休みなどは中学生も参加）によるみどりっこヘルパーが困っている人をサポート。

・「自治会だより」（独自の広報誌）の発行

地域の住民に開かれたガラス張りの自治会とするため、自治会からの情報発信だけでなく、地域住民のみなさんの意見も積極的に募集して掲載し発信する“双方向の広報紙”を毎月発行。編集・印刷・配布まですべて自治会スタッフが手作りして全戸配布。自治会がオリジナルで作成しているホームページにも掲載。

・見守り愛チーム

向こう三軒両隣の精神で、班を基にした５～６名の見守りチームを編成。平常時から、異常がないか見守り合い・命のバトン配布。異常があればリーダーへ、リーダーは自治会長・民生委員等に連絡。

災害など緊急時には、自分の安全を確保後、チームメンバーを互いに安否確認し、リーダーに報告または支援要請を行う。命のバトンを必要に応じて、自治会長及び民生委員が開封して対応。防災訓練時には、見守り愛チームごとに輪になって、情報交換と意識合わせを行う。

・その他（里山づくり、環境美化、防災訓練、小さな手助け活動、文化事業などなど）

たくさんの住民参加を得て、多様な活動に精力的に取り組んでいる。

みどりっこバスとみどりっこちゃん

里　山　活　動

ポイント　キャラクターみどりっこちゃんをシンボルに、地域への愛着がつなぐ住民の絆

役員スタッフ間の雰囲気が非常に良く、和気あいあいとして活動されている。地域の愛らしいキャラクターがシンボルとなり、住民の間に地域への愛着が広がっている。広報誌や見守り愛活動を通じて、住民同士のつながり・絆を強め、それが活動の活性につながっている。

今後の展望

団塊の世代が退職を迎えている状況から、団地に住む、豊富な知識経験を有する人材に自治会活動に参加してもらい、活動の充実を図っていきたい。（キャラクターの缶バッジ・携帯ストラップ・テーマソングなども、地域の方が職業において培った知識経験を活かして製作。）
ハンドメイドマーケットや文化事業など新たな活動にも積極的に取り組んでいきたい。

②瑞穂市本田団地自治会連合会

（平成２６年5月２７日訪問）

所在地　本田コミュニティセンター
（〒501-0236 瑞穂市本田 977-1 ）
代表者　太田　定敏　　会員　約 500 世帯

地区の概要

約４０年前にできた住宅団地で、かつては活気があり行事も多くあったが、現在では、瑞穂市内で現在もっとも高齢化率が高い。５つの自治会で、自治会連合会を形成している。役員・住民ともに高齢化し、様々な活動が負担となっていたが、平成１６年頃から、若い世代主体の活動により、活力ある団地づくり、絆の強い地域づくりを展開している。

主な特色

・若手主体の活性化委員会が発足

平成１６年、４０代の若い世代が、地域を盛り上げるため立ち上がりたいと手を挙げた。これを自治会が後押しして、若手の力を発揮できるよう自由に動ける「活性化委員会」という自治会の下部組織を発足させた。平成１７年度に行事計画・実行。自治会が活動資金を拠出し、イベントの企画・運営を若手主体で行っている。花見の会・仮装盆踊り・秋祭りなど。自治会は、「金は出すが、口は出さない」というスタンス。現在、１１年目。

・イベントの活性、人と人との絆の強まり

活性化委員会メンバーが、住民の意見を集めたり、協力者を募ったりと奔走しながら、イベントを重ねていくごとに、若い口コミにより、役員スタッフも参加者も増え、徐々に地域の人と人のつながりが広がっていった。

イベントを通じて、住民同士のつながりが強くなり、自主的に協力する住民が増え集団として行動し、イベントが盛り上がるようになった。知り合いが知り合いを呼び、世代を問わず大勢の人が参加して顔見知りとなり、絆が強まっている。

・自主防災訓練の参加者増、定着

参加者が少人数であった自主防災訓練が、活性化委員会ができて以降、大勢が参加するようになった。今年５月の避難誘導訓練には、４６１世帯・５１０人が参加。昨今では、訓練に参加することが、当然のこととして住民の間に定着してきている。

ポイント　**若手主体の活性化委員会による自治会の再生・活性化**

若手主体の活性化委員会に、イベントの企画運営を任せたことで、自治会活動全般の再生・活性化につながった。
自治会では、自主防災訓練に力を入れており、情報伝達訓練・避難誘導訓練・救出及び搬送訓練・初期消火訓練・炊き出し訓練などを年３回（春・夏・秋）毎年実施。最初は誰もが参加しやすい単純な避難訓練から始めた。
回を重ねるごとに、少しずつ訓練内容をレベルアップさせていった。「とにかく始めてみる。やりながら改善していけばよい。始めればなんとかなる。」という会長の言葉が印象的。

③多治見市脇之島（わきのしま）地域福祉協議会

（平成２６年6月１７日訪問）

所在地　多治見ホワイトタウン自治会事務所
（〒507-0826 多治見市脇之島町６-30-1 ）
代表者　鎌田　昭夫　　会員　約 2,540 世帯

地区の概要

多治見駅からバスで 10 分程度の小高い丘陵地、名古屋への通勤に便利な町として、昭和 56 年に分譲が始められた新興住宅団地。平成 32 年に高齢化率 40%になると予想される（現在 18.4%）。今後の少子高齢化・地方財政後退による行政サービスの縮小を見越し、住民同士が支えあう仕組みづくりが必要との思いから、平成 16 年 6 月に「地域福祉協議会」を立ち上げて、10 年目を迎えた。

主な特色

・将来を見越して活動を開始

平成１４年に、近い将来、住民の高齢化・若年層の流出・出生率の低下・生産人口減少等により、地域生活や活力ある地域活動の維持が困難になるであろうことを見越し、地域住民同士の支え合い活動が必要であるとの考えが住民から出て、準備組織を経て「地域福祉協議会（ふれあいセンターわきのしま）」という地域住民主体の活動団体を立ち上げた。

・アンケートを実施してニーズ把握　とにかくまず始めてみてやりながら改善していく姿勢で多様な活動を展開

地域住民の思いをアンケート等で受け止め、住民にとって必要な様々な事業を展開し、住宅団地の活性化に取り組んでいる。身近な課題から取組み、住民相互が支え合う仕組みを模索。どんな活動も、最初から満点の結果は出せない。とにかくまず動き出し、活動するうちにいろいろな課題が見つかるので改善を重ねていく。（家事支援事業、予防医療講座、各種相談対応、機関誌の発行（月１回）、ふれあいサロン事業、生活環境整備事業など。）

・高齢者移送支援サービスを展開　他の先進地域を視察に行き研究を重ねる

買い物通院等に不便を感じている高齢者の方に対して、定期的に運行する「おでかけシャトル便」（社協から貸与された共用ワゴン車）と、要望に応じて随時運行する「アッシーホワイト君」（登録された住民ボランティアの自家用車）によりきめ細やかに移送要望に対応。導入に当たっては、若葉台団地を含め先進地域を視察するなど研究を重ねた。

ポイント　**住民主体の地域福祉協議会による、身近な地域ニーズへの対応**

住民が自主的に将来の地域課題を見越して、支え合い活動の必要性を認識して事業を開始。地域住民へのアンケートにより、ニーズや改善点を把握。先進事例の視察や、関係機関との協議など、必要な情報を集めて多様な活動を展開。

④北山雨乞い太鼓踊り保存会（きたやまあまご）

（平成２６年６月６日訪問）

所在地　山県市神崎公民館
（〒501-2301 山県市神崎 114-1 ）
代表者　臼田　博一　　会員数　約 20 名

地区の概要

山県市の重要無形民俗文化財。虫送り、精霊送り、雨乞い等の際に踊られた。蓑笠をつけ尻をたたきながら踊る様はリズム感があり豪快で、豊作、子授かりに通じると言われている。昭和 51 年に保存会設立。起源は不詳。峯山の東方通称雨乞い平の縦穴鍾乳洞に石を投げいれ太鼓を打ち踊って雨乞いをしたとの伝承。高齢化が進み、後継者不足が深刻化していた時、この地域で働いていた若者（地域外に居住）が魅力に魅かれ参加したことがきっかけで会員が口コミで増えていった。

主な特色

・深刻な過疎、担い手の不足

伝統芸能を習得している担い手が高齢化し、子ども世代が故郷を離れて居住しており後継者がいない状況。若い世代はほとんどおらず、深刻な過疎化が進んでいる。芸能の継承が物理的に不可能な状況に追い込まれている。

・地域外の意欲ある若手を好意的に受け入れ

数年前、北山太鼓踊りに魅せられて興味を持った、地域外の若者（北山地区で働いていた方）が、太鼓踊りを自分もやってみたいと、会員となって活動されたことが活性化のきっかけとなった。その方は今では家族ぐるみで練習に参加している。

また、北山地区の豊かな自然と地域の人の温かさに魅かれてこの地で活動している「集落支援員」・「地域おこし協力隊」の若者、その知人の方々も保存会に入り、練習に参加。北山地区では、人とのつながり・おもてなしを大切にする風土があり、地域外の人であっても、好意的に受け入れ、地元住民とともに盛り上げていこうと伝統芸能の指導に励んでいる。

・舞台講演会を励みに、練習で絆

かつては、いろいろな祭りに参加しては太鼓踊りを披露する機会があったが、担い手の不足により、行事への参加・披露する機会がなくなっていた。山県市には北山地区以外にも同様の伝統芸能をもつ地区が幾つもあり、現在では、山県市の協力のもと、年に１度、全ての団体が集まって、舞台公演会が開催されるようになった。この舞台講演会での演舞を目標にすることで、保存会員の励みとなり、毎月第３土曜日 19 時 30 分から 21 時まで神崎公民館にて練習をしている。練習では、若者と地元住民の方が、和気藹々と楽しみながら絆を育んでいる。

ポイント　**地域外の担い手を受け入れて共に継承**

地域外のやる気のある若者を寛容に好意的に受け入れ、地元住民と共に伝統文化を継承していこうと打ち解けあって練習に励んでいる。
舞台講演会での披露という目標ができることによって、練習の励みになり、モチベーションの向上と結束の高まりにつながっている。